

令和元年度 第3回

# 福山大学 教養講座

「第三の生命の鎖、糖鎖、への誘い  
—糖鎖が関係する身近な事例から—」

10月24日(木) 10:30~11:50

《大学会館ホール》

福山大学名誉教授 学長顧問  
講師 松浦 史登先生

「糖」と言えばどんな言葉を思い浮かべますか？今日は皆さんの知っているエネルギー源の働きを持つ「糖」ではなく、私たちの体の構成成分としての働きを持つ「糖」のお話をします。それが「糖鎖」で、糖鎖とはブドウ糖などのいろいろの種類の糖が鎖のようにつながったもののことと言います。糖鎖はタンパク質や脂質に結合した形で細胞の表面を覆っており、「細胞の顔」とも言われ、大変大切な役割をしており、「生命の第三の鎖」と呼ばれるようになりました。糖鎖に関わる次の様な身近な事例をお話します。

1. ABO型血液型は赤血球表面の糖鎖の違いによる。
2. 細胞がガンになると表面の糖鎖が変化する。
3. インフルエンザの世界的流行(パンデミック)がいつ起こるかもしれないと心配されています。

インフルエンザウイルスの感染、流行には糖鎖が深く関わっていること、糖鎖研究から抗インフルエンザウイルス薬が開発されたことを紹介します。

